

# キラリ★ 話題の「ひと」



かついち  
宮森 勝市 さん  
(関川町)

○プロフィール  
佐野市日中友好協会理事長  
佐野市民大学座長  
国立中国美術学院国際美術教育交流  
名誉委員(杭州市)

## 佐野市と中国の 友好を願って

中国文化を紹介するために、宮森さんが佐野市日中友好協会の設立に参画して、昨年創立35周年を迎えました。現在約50人の会員がおり、佐野近郊に住む中国の人たちの交流の場となっています。

特に佐野市と浙江省衢州市の友好交流の橋渡し役として活動されており、20年前から始めた浙江省の子どもの絵画を紹介する展覧会は10数回開催されました。

他にも中国をはじめアジアの方たちに向けた着物着付け体験イベント、佐野在住の中国の方を講師に中国語講座や水餃子を作る料理講座なども開催しています。

佐野市楽習講師として中国茶の魅力を紹介しはじめて20年。今ではライフワークとなっている「中国茶講座」は毎回人気となっています。中国茶は数百種あると言われ、茶葉の色で黒茶、紅茶、青茶、

緑茶、黄茶、白茶の6つに分類されます。その特性や入れ方を教えていただき、ドライフルーツなど

をつまみながら中国の習慣や食生活などを知ってもらうことを目的とした講座です。生涯学習フェアなど佐野市のイベントでもふるまっていますので、宮森さんの中国茶コーナーを見つけたら、ぜひ一度味わってみてください。

(市民記者 永倉文子)

### ◀中国子ども絵画展



## 市長からの メッセージ



今年も暑い夏になりました。皆さん体調はいかがですか。7月27日の未明、植上町を中心に竜巻が発生しました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。これから台風シーズンが到来します。自然災害はいつ起こっても不思議ではありませんので、皆さんも日頃から災害への備えとして、危険箇所や避難場所などの確認をお願いします。

先月10日、11日には「第27回さの秀郷まつり」が開催されました。「令和」となり最初の秀郷まつりとなった今回は「温故知新」というテーマのもと、本市の歴史を引き継ぐ唐澤山神社の「浦安の舞」や「流鏑馬」、「みこし・お囃子」などの日本の歴史、伝統文化を再認識し、現在、活躍している「佐野ブランド大使」や「佐野ふるさと大使」、そして話題の「佐野黒から揚げ」などの新しい活力を皆さんに知ってもらおう機会になったと思います。

また、秀郷まつりに併せ10日には、滋賀県彦根市との親善都市提携50周年記念式典を行いました。彦根市からは、大久保市長、馬場議長、一圓観光協会会長などが出席され、これまでの両市の交流を喜び、今後ますます親交を深めていくことを約束しました。両市のゆるキャラ「ひこにゃん」と「さのまる」もこれまで以上に仲良く活躍してくれることを期待します。

さて、「日本女性会議2019さの」の開催まで2カ月を切りました。今月28日には、日本女性会議の閉会式でフィナーレを務める「ダ・カーポ」のデビュー45周年記念コンサートが佐野市文化会館で行われます。佐野ふるさと大使としても活躍している「ダ・カーポ」のやさしいハーモニーを私も楽しみにしています。

岡部正英



## 第27回さの秀郷まつりが開催！

8月10日(土)・11日(日)、市役所周辺などで盛大に開催されました。今年「温故知新」を全体テーマに掲げ、歴史あるまつりをさらに楽しんでもらうべく、さまざまな催しが行われました。

10日は「歴史的なものや、伝統あるものを、たずね、求めて」をテーマに、さの秀郷太鼓や秀郷流・流鏝馬などが会場を盛り上げました。

11日は、「新しい事柄を知る」をテーマに、佐野松桜高校ダンス部による披露や、歌手のはなわさんが作詞作曲を手掛けた佐野黒から揚げ応援ソング「俺たちは知っている」を佐野ブランド大使・ダイヤモンド☆ユカイさんが熱唱するなど、熱いステージが会場を沸かせました。

また、恒例のみこし・おはやし巡行がまちなかを練り歩き、華やかにまつりのフィナーレを飾りました。



## 水難救助合同訓練

7月25日(木)、渡良瀬川流域で管轄域が隣接する足利市消防本部、館林地区消防組合消防本部および本市消防本部が合同で、水難事故を想定した訓練を行いました。

合同での訓練は今回が初めてで、水難救助技術の向上、近隣消防本部との連携強化および実災害において安全管理が徹底された組織的で円滑な活動体制の構築を目的として行われ、ボートや潜水器具を活用し、大規模な捜索・救助活動が実施されました。

訓練の指揮をとった佐野市西消防署の堀敏昭署長は「今後も近隣他市と連携を図り、実災害に備えたい」と話しました。

台風やゲリラ豪雨による河川の増水などの自然災害が多くなる時期です。市消防では日々、災害などに備え訓練を行っていますが、私たち一人ひとりが防災の意識をもって、自身を守るよう努めましょう。



佐野弁  
ばんざい

方言オッパシルは  
“走って行く”という意味だった

オッパシル(オッペシルとも)という方言があります。これは「走る」に、オッ(接頭語)が付いたものです。オッは走る動作を強めるはたらきがありますので、オッパシル(オッペシル)は、元来、足早あしはやに行く・走って行く・かけて行くという意味でした。

「あのワケーシ(青年)は、バスの出る時間にマガウダンベ(間に合うだろう)か。急いでオッパシッテッタ(走って行った)から、マガッタンベ(間に合ったでしょう)。ポットスルト(もしかすると)、マガーナカッタ(間に合わなかった)かもシンネよ」

ところが、「走って行く」「かけて行く」という意味のオッパシル(オッペシル)は、「歩いて行く」「歩いて帰る」という意味に変わって使われることが多くなりました。

「午後3時になると、決まってここにとぼとぼやって来て……。すぐにまたヒツケーシテ(引き返して)、とぼとぼオッパシッテグ(家に帰って行く)老人がいますね。どんな人？」  
オッパシル(オッペシル)を使う人たちの多くは、明治・大正生まれですから、今では使われることがほとんどなくなりました。ですから死語同然の方言といっているでしょう。

オッパシルに関連する方言にトッパシル(トッパシリスルとも)があります。この方言はオッパシルに「遠い」が付いたもので、「遠くの方まで歩いて行く」という意味です。  
「あの子はひとりで、あっちの方まで、よくもまあ、トッパシッタもんだねえ。シンネ(知らない)道を歩いてって、不安じゃなかったンダンベか」

(市民記者 森下喜一)

今回の表紙 「彦根・佐野親善都市提携50周年」令和元年8月10日撮影